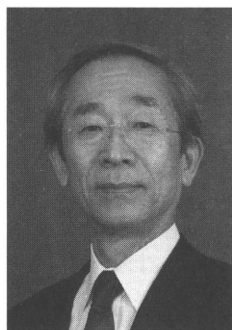


●新会員代表者紹介 よしだ みきお 吉田 美喜夫



立命館総長 立命館大学学長

川口清史前総長の任期満了に伴い、一月一日付で吉田美喜夫・立命館大学大学院法務研究科教授が学校法人立命館総長に就任した。任期は四年。

吉田総長は一九四九年、岐阜県可児市生まれ。一九七二年立命館大学法学部を卒業し、同大学大学院法学研究科を経て、一九八一年立命館大学産業社会学部助教授、一九九〇年同大学法学部教授、二〇〇四年からは同大学大学院法務研究科教授に就任。二〇〇六年から法学部長、二〇〇九年からは図書館長なども務めた。

専門は労働法（労働法の基礎理論・タイ労働法）で、日本労働法学会や日本社会保険労務法学会に所属している。研究業績としては『タイ労働法研究序説』（見洋書房、二〇〇七年）、『グローバル化と現代国家』（御茶の水書房、二〇〇二年）など著書・論文多数。趣味は読書と散歩。

就任記者会見では、「ここまできた立命館の到達点を継承しつつ、さらに発展させていきたい。『選ばれた大学・学園』を目指すうえで、『生き残り戦略』としてのグローバル化」でなく、『立命館が世界のためにどのような貢献ができるのか』をつねに考えて取り組みたい」と決意を語った。

これからの学園像として「ディーセントな学園」と「コモンスとしての学園」を挙げ、前者には「信頼関係に支えられた学園」という意味を込め、後者では、学園構成員が相互に影響・刺激を与え合うことの重要性を説く。

座右の銘は「信義誠実」。社会からの期待に応える学園づくりに向けて、グローバル化をはじめ、一層ダイナミックな歩みを進める舵取りに期待が集まる。

●新会員代表者紹介 K・J・シャフナー



西南学院大学学長

G・W・バークレー前学長の任期満了に伴い、二〇一四年二月一日付で、K・J・シャフナー国際文化学部教授が学長に就任した。任期は二〇一八年二月一日までの四年間。アメリカ人の学長としては四人目、大学創設以来、女性として初の学長となる。

新学長は米国テキサス州出身。一九八〇年米国ミドルベリー大学院修士課程、一九八二年米国サウスウエスタン・バプテスト神学大学院修士課程修了。その間、米国南部バプテスト宣教団短期宣教師、米国オクラホマ・バプテスト大学で語学研修所主事、米国フ

ォート・ワース独立学校成人教育英語教師を歴任。

一九八四年六月に米国南部バプテスト宣教団日本派遣宣教師として来日（二〇〇三年に宣教師辞任）。一九八七年四月から西南学院大学文学部講師、一九九四年に同助教授、二〇〇六年に国際文化学部助教授、二〇〇七年に同教授となる。その後、宗教局長、学校法人西南学院理事、同評議員の要職を務め、現在に至る。

専門は現代アメリカ学で、主にアメリカの優生学について研究している。American Historical Association、生命倫理学会、日本基督教学会などに所属。主な著書に『Eugenics in Japan』がある。

二〇一六年に創立一〇〇周年を迎える本学院のさらなる発展のため、大学においても、建学の精神、理念・目的を踏まえた教育・研究の推進を積極的に展開することを目指す。

いつも笑顔顔を絶やさず流暢な日本語で人の心を引きつける。その中にも静かな強さを秘めており、これからますます厳しさを増す大学経営を切り盛ります姿に、今後の期待が膨らむ。

大学時報・年間総目次 第三五六号 (二〇一四年五月) ～第三六一号 (二〇一五年三月)

第三五六号(二〇一四・五)

巻頭言 Mastery for Service を体現する世界市民

村田 治

巻頭論文 グローバル社会と高等教育 馬場善久

座談会 教養教育の復活——その課題と展望

浦野光人／飯島一彦／末廣 謙／嘩道佳明／

(司会) 高見 勲

座談会特別寄稿

「教養」と「教養教育」

竹内 洋

求められる「教養」と「教養」の教育——産業

界要求と二一世紀の大学の責務 飯吉弘子

大学間の交流——大学情報サミット 田山善裕

私大連盟アドミニストレーター研修最終レポート

「所属大学の改善提案」の採択にあたって

柴 良治

人とのつながりを大切にした学園づくり

——信頼から生まれるものとは 中 英司

特集 外国人学生・留学経験者への就職支援

外国人留学生の日本での就職状況と日本学生支

援機構の役割 米川英樹

「世界市民」として活躍するために！ 小山裕正

留学生を取り巻く就職状況——立命館アジア太

平洋大学開学以降の歩み

太田 猛

グローバル人材活用への取り組み——産学官協

働による留学生の就業支援 三浦正博

グローバル人材採用の今——ポストンキャリア

フォーラムから読み解く 大掛 勲

明日への試み

武蔵野大学法学部

「新世代法学部」の船出——法学教育の新たな

試みと挑戦 中村孝文

ずっとそう

久留米のこと 神代正道

私の授業実践——教育現場の最前線から

双方向授業——何を聞き、どう進めるか

仲道祐樹

わが大学史の一場面——日本の近代化と大学の歴

史

ミッシェン・スクールの歴史と特質

鈴木勇一郎

加盟校の幸福度ランキングアップ《コラボレシ

ョン編》

地域と協働で学ぶ・獨協大学 遠藤充信

産学連携プロジェクトによる新商品コンセプト

の提案・武蔵野美術大学

武蔵野美術大学研究支援センター

産学連携大学対抗ウエディングテーブルコーデ

イネートプレゼンテーション——ホスピタリ

ティ産業への人材育成の取り組み・大阪学

院大学 森重喜三雄

クローズアップ・インタビュー

手話通訳士 深海久美子さんに聞く

(聞き手) 山岡三子

新会員代表者紹介

井上寿一(学習院)

湊 晶子(広島女学院)

田中優子(法政大学)

早下隆士(上智大学)

村田 治(関西学院)

姜 尚中(聖学院)

小野祥子(東京女子大学)

池田明史(東洋英和女学院)

新学長紹介

竹宮恵子(京都精華大学)

堺 憲一(東京経済大学)

新加盟会員大学・学長紹介

昭和女子大学

坂東真理子(昭和女子大学)

大学点描 関西学院大学

だいがくのたから 山梨英和大学

第三五七号(二〇一四・七)

巻頭言 創立五〇周年と不易流行

木船久雄

巻頭論文 心の時代、心の教育

飯降政彦

座談会 学校法人会計基準のこれまで、そしてこれから——私立大学の説明責任及び経営にもたらす影響を考える

奈尾光浩／田辺和秀／山本尚明／片山 覺／

(司会) 西野芳夫

座談会特別寄稿

学校法人会計基準のこれまで、そしてこれから

——改正が学校法人経営にもたらす影響を考える

田辺和秀

学校教育法及び国立大学法人法の改正について

白井 俊

高大全体の教育改革と達成度テストを巡って

——私立大学の立場から 松本亮三

特集 「生活の場」から「人材育成の場」まで

——進化する「寮」の目指すもの

多文化共生の「寮」をデザインする——A P ハ

ウスの未来(立命館アジア太平洋大学)

今村正治

引き継がれる自治の精神

古沢希代子

国際学生寮W I S Hにおける人材育成——早稲

田大学中野国際コミュニティプラザ国際学生

寮での事例から 葛山康典

多世代との絆を実感できる学生生活——春日部

市官学連携団地活性化推進事業 森田貴実香

民間経営の学生寮が目指すものとは——学生寮

に求められる新しい形

金丸圭介

教育寮「チエルシーハウス」の始まりと未来

山本 繁

明日への試み

福岡女学院大学国際キャリア学部

グローバルに活躍する女性リーダーの育成

細川博文

特別連載 高校は今——これからの高大接続・連携を考える(大阪府編)

大阪府における「活力あふれる府立高校づく

り」と「高大接続」

柴 浩司

学びの創造「探究ナビ」

探究的学習において求めたい高大連携のあり方

坂井啓祐

SELHiとSSHの経験から考える

林 伸一

SGH校・大阪府教育委員会との高大連携と入

試改革——国際化に重点を置く大学として

原田恵子

ずいそく

仏教思想と人材育成

尾木義久

私の授業実践——教育現場の最前線から

学生に学ぶ講義運営——学生の「気づき」を引

き出す 古河良皓

わが大学史の一場面——日本の近代化と大学の歴史 桶 隆一

私学としての再出発と大学開学

井上寿一／桑尾光太郎

加盟校の幸福度ランキングアップ(ドラマ・映画

ロケ地編)

大学がドラマ・映画のロケ地となる理由・文教

大学 小林真詩

学外者から見て、魅力のある大学を目指す・実

践女子大学 奥島尚樹

大学の撮影利用と広報施策への活用・東洋学園

大学 相川徹人

クローズアップ・インタビュー

株式会社つ・い・つ・い代表取締役 遠藤貴子

さんに聞く (聞き手) 山岡三子

新会員代表者紹介

嶋田順好(宮城学院)

山寄哲哉(根津育英会武蔵学園)

杉山 晃(清泉女子大学)

新学長紹介

牛渡 淳(仙台北百合女子大学)

大学点描 名古屋学院大学

だいがくのたから 桃山学院大学

第三五八号(二〇一四・九)

巻頭言 教員・職員・学生の三者一体で未来を築

く 北川 薫

巻頭論文 改正学校教育法等の施行に向けて

——大学の自治と私立大学の多様性を尊重した

大学改革の進展を

福原紀彦

座談会 世界で広まるMOOC (Massive Open

Online Course)——わが国の高等教育への展開

白井克彦／吉見俊哉／美馬のゆり／(司会) 音
好宏

特集 世界で広まるMOOC (Massive Open Or-

line Course)——わが国の高等教育への展開

内外のMOOCの経緯と現状及び将来展望

福原美三

社会人学生市場の開拓とJMOOC——芝浦工

業大学専門職大学院工学マネジメント研究科

の取り組み 田中秀穂

美術大学の演技課題をメディア授業化する

白尾隆太郎

JMOOCの準備段階における課題と期待

矢野桂司

やつてみたJMOOC——事務職員による受講

体験記 木村健太

被災地復興と新たな日本の創生に向けて——東日

本大震災復興シンポジウム二〇一四(東京大会)

参加報告 芹澤 剛

LGBT学生の存在を考える——キャンパス内での
ダイバーシティ推進のために 日高庸晴

明日への試み

上智大学総合グローバル学部

グローバル、ローカル双方方向の理解を目指して

——上智大学総合グローバル学部の試み

寺田勇文

創価大学国際教養学部

「グローバルリーダー」の育成のために

マリア・グアハルド

小特集 日本の大学は、世界大学ランキングにど
う向き合うか

大学ランキングと日本の私立大学 米澤彰純

世界大学ランキングの動向と問題点——日本の

大学の正当な評価とは 樫木哲夫

国際化を目指す大学にとつてのレビュテーション・

ン・マネジメント——英国の動向 田中 梓

ずいそう

創立一〇〇周年を迎えるにあたって 吉田茂生

私の授業実践——教育現場の最前線から

英語学習の先にあるもの——大規模大学での試

み

わが大学史の一場面——日本の近代化と大学の歴

史

「進取と伝統」新しさを重ねて三七五年

赤松徹眞

加盟校の幸福度ランキングアップ(大学発グルメ

編)

産学・異業種連携による商品開発の試み——地

域産業の復興を目指したラーメンの開発・石

巻専修大学 石原慎士

アスリートのための冷凍お餅・関西大学

河原秀久

介護食に最適な「溶けないアイス」開発・関東

学院大学 松崎政三

クロースアップ・インタビュー

日本画家 平松礼二氏に聞く

(聞き手) 山岡三子

新会員代表者紹介

福宮賢一(明治大学)

吉村 昇(東北公益文科大学)

松前義昭(東海大学)

大学点描 中京大学

だいがくのたから 恵泉女学園大学

第三五九号(二〇一四・一一)

巻頭言 創立五〇周年に思う

辰巳浅嗣

巻頭論文 京大澤柳事件に思うこと

油井雄二

座談会 大学で、芸術家を育てるということ

竹宮恵子／甲田洋二／加藤 敬／(司会) 兼高

聖雄

特集 大学で、芸術家を育てるということ

芸術家を育てるための大学教育組織と理念の矛

盾を超えるには 保科豊巳

大学で美術を教授する意味 半田滋男

リベラル・アーツとしての音楽専門教育 立神粧子

後生畏ルベシ 山城むつみ

THROUGHの精神 村井華代

大学連携と地域活性化——大学コンソーシアム京

都の二〇年と未来 徳永寿老

小特集 大学人の育成——研修に期待するものと

は

高等教育の質保証を支えるFD活動——広島大学における全学FD活動の導入経緯と現状

大膳 司

専門性基準枠組と教員職能開発

沖 裕貴

研修制度の変遷と今後の課題——学校法人西南学院での取り組み

大羽康二

魅力ある大学をつくる——その担い手として

原 正福

明日への試み

文教大学経営学部

人間尊重の経営を目指して

坪井順一

特別連載 高校は今——これからの高大接続・連携を考える《東京都編》

都立高校改革の推進

曽根 稔

「知の日比谷」で世界へ羽ばたく

武内 彰

さらなる一〇年を目指して

林 修

東京都立国際高等学校における高大接続・連携

須永修爾

高校の学びのフィールドを大学へ地域へ

大野高裕

ずいそう

オランダで経験した生活の中の音楽

福川伸次

私の授業実践——教育現場の最前線から

数学の授業を通して教えたいこと——社会に出る前に学んでほしいこと

山方 啓

わが大学史の一面——日本の近代化と大学の歴史

史

「人間の尊厳のために」の充実に向けて——南山大学の歩み

山丸雅夫

加盟校の幸福度ランキングアップ《大学発オリジナル酒編》

ナル酒編

休耕地発の日本酒「醸彩滝不動」・城西大学

城西大学休耕地活用プロジェクト

新製品開発を通じた社会人基礎力の育成——産学連携の新たな取り組み・松山大学

河内俊樹

復興支援のオリジナルグッズ——西南オリジナルワイン

巨峰葡萄酒ルージュ・西南学院大学

坂本剛頼

クルースアップ・インタビュ

庭師 (Landscape Artist)

北山安夫氏に聞く (聞き手) 山岡三子

新学長紹介

長坂悦敬 (甲南大学)

大学点描 阪南大学

だいがくのたから 大阪女学院大学

第三六〇号(二〇一五・一)

巻頭言 グローバルに活躍する女性を育む

坂東眞理子

年頭所感 大きな変化とグローバル化の時代にますます大切になる私立大学の役割

清家 篤

巻頭論文 大学のあるべき姿

姜 尚中

座談会 学長の初夢

日比谷潤子／坂田 隆／濱田純一／(司会) 村田晃嗣

私立大学フォーラム——平成二十六年前期総括

広報・情報部門会議(フォーラム)

特集 私立大学における教員養成教育のあり方

現代の教員養成改革と私立大学における教員養成

成 森田真樹

時代が求める教員養成を探索しつつ——文教大学教育学部の現状と方向

太郎良 信

「質の高い教員養成」に向けて——教職課程の全学体制による取り組み

森山賢一

時代をリードする女性教員の養成——創設者の理念を基盤とする日本女子大学の教員養成のあり方

吉崎静夫／関口ひろみ

教職支援センターによる学生支援

伊藤豊美

人間主義の教員養成を目指して

鈴木将史

明日への試み

武蔵野大学経済学部

原点回帰・新手法・そして人間力——レイト・カマー学部の存在意義

齋藤英里

小特集 保護者・保証人と大学の関係性とは

保護者との関係づくりの意義と課題

吉武博通

ベアレנטツデー・地域交流フォーラム

古谷修一

ずいそう 父母の会の活動について

鹿島久幸

私の授業実践——教育現場の最前線から

小川秀興

基礎あつてこそ応用 藤本頼生
わが大学史の一場面——日本の近代化と大学の歴史

信念を貫き、自ら学び、実践する 真橋美智子
加盟校の幸福度ランキングアップ《大学発オリジナル酒編》

地元の産学連携による街おこしサワワーの開発
——立正大学吉田ゼミ発「E否サワー」と

「ボンチサワー」・立正大学

清酒・勝馬米・立命館大学

清水幸代
久保 幹

クローズアップ・インタビュー

アルビニスト 野口 健氏に聞く

(聞き手) 山岡三子

新会員代表者紹介

酒井正三郎(中央大学)

大城光正(京都産業大学)

新学長紹介

山田清志(東海大学)

大学点描 昭和女子大学

だいがくのたから 久留米大学

第三六一号(二〇一五・三)

巻頭言 成城大学が目指すもの

油井雄二

巻頭論文 グローバル化の波・これからの改革

杉山 晃

大特集 私立大学のガバナンス、マネジメン
ト体制を考える

座談会 改正学校教育法施行後の教学マネジ
メント体制

坂井東洋男/平川 新/河田悌一/(コー
ドネーター) 木南英紀

特集 私立大学のガバナンス改革——学校教
育 法改正を超えて

グローバル教育と、何かのためにではない教
育 平川克美

改正学校教育法施行にあたっての一考察
加用久男

産業界が求める人材像と私立大学への期待
中西宏明

学校法人のガバナンスについての一考
佐野慶子

学校法人の社会的責任と監事の役割
久岡康成

私立大学フォーラム——平成二十六年
度後期総括 広報・情報部門会議(フォー
ラム)

小特集 学生のマナー違反——地域と
どう関わり、向上に取り組むか

地域との共生を目指して——早稲田ス
ポーツ エス・ティン 東伏見における取
り組み

地域と連携した通学・交通マナー問題
の解決に向けて——立命館大学びわこ・く
さつキャンパスの取り組み

古橋由一郎

マナー違反への教育的な対応——学
生の倫理性を育む 井出 元

全面禁止の自動車通学への大学の取
り組みと学生のマナーの向上 大石
洋史

ずいそう アメリカと銃 森 孝一

私の授業実践——教育現場の最前線
から active learning へ creative learning 福
嶋伸洋

わが大学史の一場面——日本の近代
化と大学の歴史

新潟のキリスト教学校の歩み——そ
の芽生え、消滅、復活 山田耕太

加盟校の幸福度ランキングアップ《地
元商店街との連携編》

地域が学生を育て、学生が地域を元
気に——名古屋学院大学×日比野商
店街の事例より・名 水野晶夫

学生の「第二の地元」と地元の「御
用聞き」・大阪学院大学 鎌苅宏司

果鴨を潤いと夢のある街に・大正大
学 柏木正博

クローズアップ・インタビュー
学校法人ノートルダム清心学園理
事長 渡辺和子さんに聞く (聞き手) 山岡三子

新会員代表者紹介

吉田美喜夫(立命館) K・J・シヤフナ
ー(西南学院)

大学点描 成城大学

だいがくのたから 苦小牧駒澤大
学

●学長会議第二回全体会議開催

「改正学校教育法施行後の教学マネジメント体制」(平成二十七年一月二日・東京)を開催。

「校務をつかさどり、所属職員を統督する」学長は、いかにして教授会をはじめとする諸機関の責任と権限を明確にし、その活性化を通じて教職員を指揮監督し、最終決定を下すのかを考える一助とすべく開催し、五七大学六七名が参加した。

本会議ディスカッションの様子は、15ページに掲載の「座談会」をご覧いただきました。

編集後記

□学校教育法改正について、教員の立場としてはやはり、学長と教授会の責任と権限の問題にまず関心が向く。しかし、私立大学のガバナンスの問題を、内容面でも立場の点でも多面的に取り上げた今回の特集では、久岡論文はもちろんであるが、それ以外の論考においても、随所で監事の役割が学長権限との関係で(も)

重要になると指摘されている。問題を全体構造としてとらえなければいけないとあらためて認識させられた。

私立大学のもつ「公益性」「社会的責任」とは何か。どのようにしてそれらを示し、社会的信頼と納得を調達していくのか。これまでもつねに問われてきたことを、全く新しいステージで、これまでにはない厳しさで自問することが必要になっていく。同時に、何のためのガバナンス改革なのか、高等教育さらには教育そのもののあり方は本来どうあるべきなのかを、日々の教育活動の中で、同僚教職員と共に考え続けていきたいと思う。(広報・情報部門会議(大学時報)委員・明治大学文学部教授 高野 和子)

□小特集は「学生のマナー違反——地域とどう関わり、向上に取り組むか」というテーマで四つの大学から大学内における学生のモラル・マナーの向上の取り組みや、地域との取り組みなどの事例を紹介していた。どの大学も本当に苦労されていたおられ、その努力には頭の下がる思いである。現実問題として、目の前に多くのクレームや苦情があり、それに対応しつつ、「最近の学生は……」と愚痴をこぼしたくなることもあると

推察する。しかし、われわれは大学に身を置くため、大学生のモラルやマナーの「悪さ」が強く印象づけられている面はないだろうか。「モラル」や「マナー」などの道徳的概念、社会的規範は人々の間で暗黙裡に共有されているだろう」という「不確かなもの」である。また、「マナーを守らない大学生は増加しているのか」や、「大学生ではない人たちのマナーはどうなのか」「その行為は本当にモラルが欠如している行為なのか」など、クリティカルに考える視点も必要であろうと感じる。

今後この視点での分析も、専門家のお力をお借りして特集してみたい。(広報・情報部門会議(大学時報)委員・関西学院大学入試部課長補佐 簡井 弘幸)

□本号の特集では、四月より施行される改正学校教育法を踏まえ、ガバナンス面だけでなく、現在の大学教育について、さまざまな方に寄稿をいただいた。私立大学は、建学の理念やガバナンス体制についても、それだけの大学で千差万別であるが、守らなければならない部分と、法改正をきっかけに積極的に変えていかなければいけない部分があるのだろう。

しかし、私たちが決して忘れてはならないことは、大学は人を育てる所だということなのではないか。ガバナンス面の改革が求められているのと同時に、大学入試改革をはじめとして、教育面に関しても、社会からの改革要請は強い。ガバナンス面ばかり焦点が当てられがちだが、大切なのは、その結果として大学教育がどのように変わり、どのような人を育てることができなのか、ということだと感じている。小学校・高等学校の学習指導要領の改訂が予定されている今、教育改革からも目が離せない。(日本私立大学連盟事務局 森田 雄)

□本誌の歴史をひもとくと、第一号の発行は昭和三十一年(一九五六年)にさかのぼる。「高等教育における最新動向の情報発信」と「私立大学に関する正しい理解を社会から得る」との編集基調は維持しつつ、その誌面については時代に合わせてリニューアルしてきた。

次号(五月号)からは、「より読みやすく」「よりわかりやすく」してお届けする予定である。ぜひお楽しみにしていただきたい。(日本私立大学連盟事務局 春名 貴明)

(121大学 平成27年3月20日現在)

[illegible]

第64卷361号（通卷375号）
平成27年3月20日発行

〒112-8531 東京都文京区水道1-3-3

小 天 中 簡 赤 字 高 高 兼 木 片 茂 佐 春 權 森	林 方 井 井 高 野 見 高 村 岡 澤 木 名 藤 田	直 聖 雄 弘 元 宗 和	緞 信 弘 常 輔 卿 ・ 勲 雄 大 彦 明 日 雄	法政大學社会学部教授 法政大學社会学部情報局長 關西學院大學社会学部教授 關西學院大學社会学部教授 慶應義塾大学法学部教授 慶應義塾大学法学部教授 明治大学文学部教授 明治大学理工学部教授 日本大学芸術学部教授 立命館大学経済学部教授 立命館大学経済学部教授 園田学園女子大学人間教育学部教授 早稲田大学広報室副室長 日本私立大学連盟事務局 日本私立大学連盟事務局 日本私立大学連盟事務局
--	---	---------------------------------	--	---



本誌は、WEBサイトにて、全文を無料公開しています。

詳細は、<http://www.shidaiaren.or.jp/activities/daigakujihou> へ

※バックナンバー（第344号、平成24年5月発行より）もご覧いただけます。

連盟WEBサイト

連盟公式Facebookページ

大学時報

GO

